

亜急性硬化性全脳炎におけるインターフェロン濃度

研究分担者： 山口大学大学院医学系研究科小児科学分野 市山高志

図 1

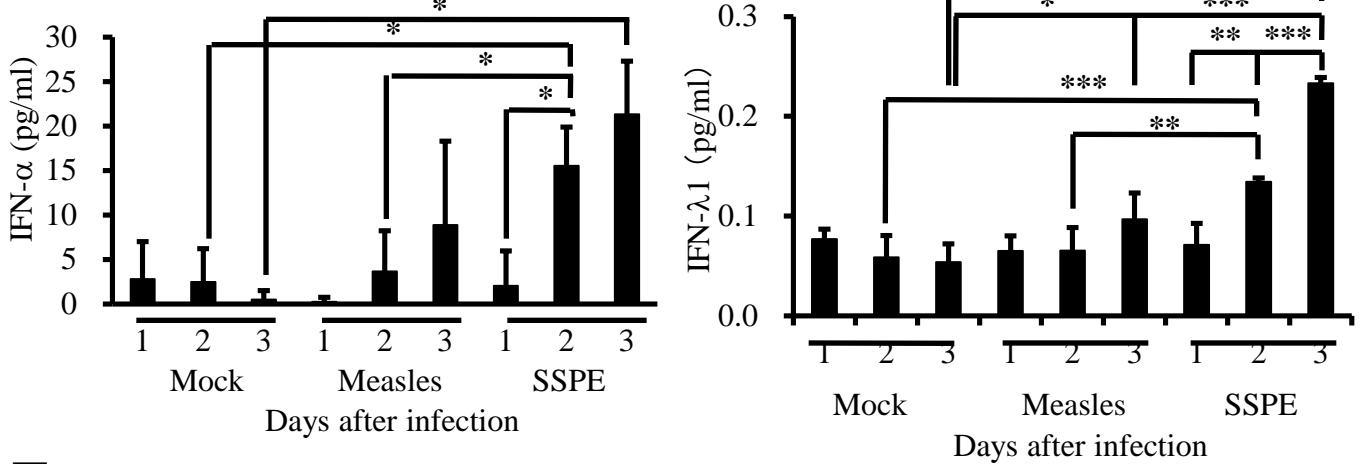
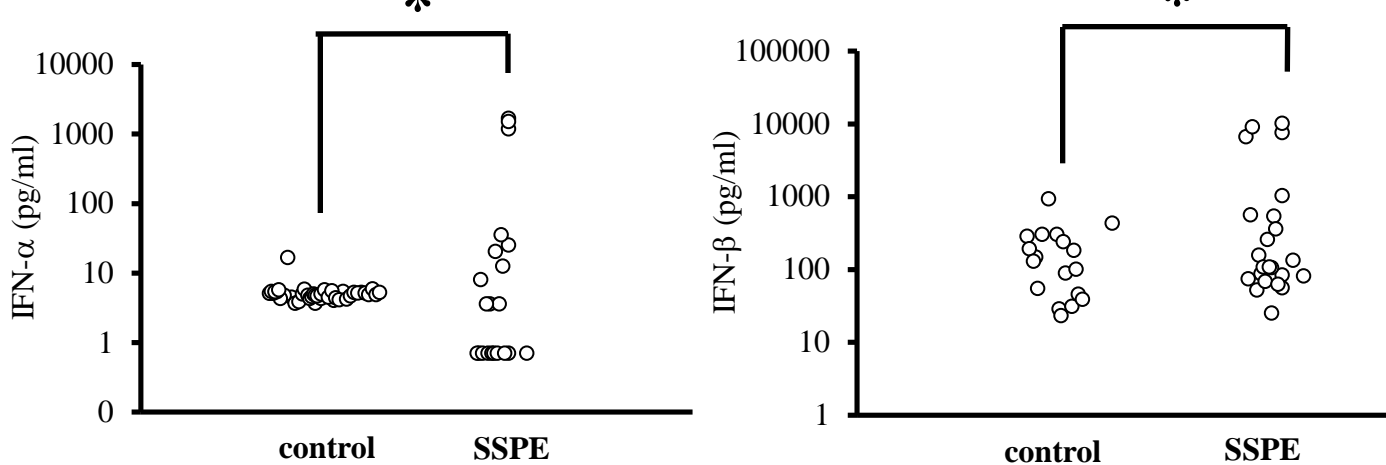


図 2



解 説

1. SSPE ウィルスは B95a 細胞から有意に多量の IFN-α および IFN-λ1 を産生した. (* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$) (図1)
2. SSPE 患者において血中の IFN-α および IFN-β 濃度は健常群に比し, 有意に高値であった. (* $p < 0.05$) (図2)
3. SSPEの免疫病態にIFNの関与が示唆された